

TWO COLORS

M-1: TWIN CANNONS

M-2: floret

M-3: GHOST～break beatの幻～

M-4: SNIPER

M-5: BIG HUG SONG

M-6: SAZANKA -acoustic-

ORCA consists of kazuhito maeda rui momota

All tracks written, performed by ORCA except M-6 sazanka (acoustic) bass performed by Kosyo Okutaki drums performed by Chang lleun

SS www.soundscape.jp soundscape

TWIN CANNONS

cannon : that is twin.
cannon : shiny skin.
cannon : very beautiful.
cannons : those are twins.

tower : that was twin.
tower : broke apart.
tower : broke like a hollywood movie.
towers : those were twins.

everybody says that he is an evil,
just because everyone says so.
you've got to take it away,
get rid of stereotype and think it all
with your head.

we're gonna get into the truth.
we'll find something that is real.
it must be different from that
well-made story,
everybody, come and see!
(come on, tell me!)

cannon : shoots the sky.
cannon : wonders why.
cannon : from the inner core.
cannons: shoot the sky.

let me say the word that I want to say.
let me sing a song that I have to write.
all my thoughts and feelings
come from inside
loaded in the arms of mine.
now, put my fingers on its trigger .
hold my breath. no time to hesitate.
I'm seeing the sight and about to shoot it.
oh, brother, so are you?
(come on, hit it!)

cannon : that is twin.
cannon : shiny skin.
cannon : very beautiful.
cannons : those are twins.

cannon : shoots you right.
cannon : take your time.
cannon : with the power chord.
cannons: shoot you right.

floret

ただその手をぎゅっと繋いだ 君はうつむいた
またこの胸の奥を塞いだ 僕は空を見上げた
季節はずれなマフラーを噛み締めてた ぐっと

粹のないパズルを埋めるように
無造作な時間を費やしていたんだ

春風 頬を射す 月夜は僕に向かって
燦々と照らすよ 希望と現実を
まだ見ぬ未来を

今は新しい雑居ビルが立ち並んでいる
(僕を拒むように)
この街が嫌いになりそうだその面影とともに
(確かにここにいた)
君の記憶まで 失ってしまいうさだから

今も足元に咲くマーガレット
あの時と同じよう 咲いている

何も言えずに 君の背を見つめていた
単純な言葉も 言えなかったんだ
終わりが始まった

かわりゆく心を責めてみても空しいな
(移ろい過ぎて行った)
奇跡を信じてみても君はいないや
(癒えるはずのない痛みも)
君のその温もりも そっと優しく微笑む顔も

舞い上がる想いは 夜空にかき消された
だんだん僕はきっと 変わってゆくんだ
また花が咲いたら 僕は君を憂う

ただその手をぎゅっと繋いだ
(ただ君に触れたかった)
ただ時間を戻したかった
(ただやり直そうと誓った)
ただ君に会いたかった
(ただ僕は会いたかった)
ただ僕は立ちすくんだ
(ただ僕は途方に暮れた)

春風につつまれて

SNIPER

溢れんばかりのマテリアル・ワールド
飽和状態ジェネレーション
いつからか食べて生きていくのも
困らないシチュエーション
おまけにや瘦せ薬が恰好的になってる始末で
一体全体僕らの狙うべき物は何なんだ！

(snipe,the gun sight)
I'm an unable sniper がむしゃらになって
my aim is off the point 探しているんだ
(no time to hesitate)
I'm an unable sniper そう 愛のコトダマ
but,I never give up 撃ち放ってんだ！

真空パックの様な満員電車に揺られて
ガチガチに固められたシステムを起動させて
「何のために生きてんだ？」って
「存在意義はなんだ？」って
ばやくのは簡単なんです 思いはねじれてループしていく

無数の可能性が僕らを感じてる
人はみんなみんな悩むものよ と言えど

I'm a modern dreamer がむしゃらになって
a desperate singer いつも歌ってんだ！

(snipe,the gun sight)
I'm an unable sniper がむしゃらになって
my aim is off the point 探しているんだ
(hey! make my day)
I'm an unable sniper そう 愛のコトダマ
but,I never give up 撃ち放ってんだ！

愛も自由も絶望も共存している未来を
屈託なく赤裸々に照らし始める太陽
暴力と平和が今も表裏一体になって
嘲笑うかのように風に揺らいでいる

こうして世を憂いながらもなんだかんと言って
(無限に広がる藍より青い空よ)
嗚呼 僕らはずっと きっと 愛に飢えてらあ
今日もまた水平線を越えて昇ってくる
(赤子をあやすように光りへと誘え)
暗闇の先には何が見える？

僕らが狙うもんはただひとつ そう愛 愛
決してロックオンされないターゲット
(snipe,the gun sight)
結局 僕らは無能なスナイパー！
(snipe it in your own way!)
だけど僕らはがむしゃらなドリーマー！
愛の言葉 撃ち放ってんだ！ snipe!

BIG HUG SONG

Once upon a time, many years ago - just 10 years ago,
in fact - I was living in a dormitory. I was 17 and I had
nothing to do without writing songs and doing some
part-time job. My dream for the future, mission,
distant goal, anyway, call it what you will,
was to be just like them -musicians-.
And 10 years have passed, now I'm singing for you,
this " BIG HUG SONG" .

曲がりなりにも年を重ねて 少しは落ちついちゃって
平穩な日々を一応は過ごしてる
ちょっと待った！ これでいいんか？
って思う事だってあるけれど

前を向いて ひた走って 何も変わらぬ毎日だとしても
君をずっと 時にぎゅっと
抱きしめていられたらいいね
そうだいつの日にか どこかで僕らは振り向くだろう
だからその時のため 今は立ち止まりたくないのさ
あの日の君と交わした約束が まだ僕を歌わせるから

Watching TV, Browsing the internet, I can easily get
the information more than necessary. The simple
dualistic theory of good and evil can never explain
the world situation, and the situation around myself.
what I have done, things could have been, and all
those things left behind and so many people I had to
say good-bye. Sometimes I feel like it is hard to find
where I am now on this long and winding road.

眠れぬ夜を幾つも重ねて ぼやけた頭の中
同じ言葉がぐるぐる回ってる 足踏まして 歯がゆくて
「時よ止まれ！」と叫んでみて

陽が昇って 朝になって 街中が少しずつ動き出して
寝ぼけ顔で ラテを飲んで 犬を散歩につれた君を眺め
そうだ悲しい藍は 探さずともそこらに溢れてる
だから少しだけでも 今は笑いあっていたいのさ
晴れた日の空 雲の切れ間から差し込む 光浴びて

まだ叶わぬ夢の半分を迎えに行こうとしているんだ
けど 折れそうになる僕を見つけて
人波の中 立ちすくむ

膝について 空仰いで 自分が暗く小さく見える時
もう嫌になって もう投げ出して
逃げ出したい気持ちにかられる時
思い出すよ 生まれて来て 間もない幼い日に見たものを
未だ僕の 心の奥の 片隅に確かに在るものを

時が経って 年をとって いつの日か笑える日が来たら
ただもがいてる今日だって捨てたもんじゃないと思えるだろう
前を向いて ひた走って 時には願いたりなんかもして
君とずっと 時にぎゅっと 同じ時間を分け合っていたい
そうだいつの日にか 何処かへ僕らは辿り着くだろう
そしていつの日にかは この世界からも旅立つんだろう

だから今この瞬間その全てを 抱きしめていよう